

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会

時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信夫
両団体理事長 半田 晴久
新エネルギー委員長 中島 稔
両団体専務理事 清原 淳平

新エネルギー委員会のお知らせ (第320回)

日時 平成30年3月6日(火) 午後1時半～4時

場所 参議院議員会館 1階 102会議室

千代田区永田町2-1-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より5分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車2分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。また、会議開始後にお越しの方は、受付に「102会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

- 議題
- 1、最近の再生・新エネルギーについて想う
挨拶 中島稔新エネルギー委員長
 - 2、小さな温度差で発電する技術
解説 木口学東京工業大学理学院教授
 - 3、『新エネルギー関連ニュース NO. 173』
解説 中島稔新エネルギー委員長

報告 去る2月6日開催の第319回新エネルギー委員会は、中島稔新エネルギー委員長が議長を務め行われました。

まず、清原淳平専務理事より、本日の講師・細見正明東京農工大学教授の経歴紹介がありました。

次に、中島委員長より、「最近の再生・新エネルギーについて想う」と題して開会挨拶がありました。世界各国で、再生エネルギーの普及が進んでいる。例えばデンマークでは、風力発電が総発電量の43.4%に達した。日本では風力発電はわずか6%、水力発電などを加えた再生エネルギー全体でも14.5%にすぎない。10年後に再生可能エネルギーシェア50%を目指しているが、このペースで果たして実

現は可能だろうか。

次に、細見教授より、「豚の尿から微生物を利用してメタンガスを製造する技術」と題して解説をいただきました。日本の養豚業者は零細が多く、糞尿処理を十分行わずに川へ放流している業者が多い。環境基準に適合した糞尿処理を行い、かつ養豚業者が儲かる仕組みを作らなければならない。特に糞は堆肥化すれば利益を上げることはできるが、尿の処理にはコストがかかる。従来、稲わらを混ぜ、複数の微生物を使って加水分解、酢酸の生成と脱水素化、メタンの生成というプロセスを経るが、含水率が高い湿式では排水処理が必要となり、結局コスト高となる。そこで、排水処理が不要な乾式発酵法に着目した。糞尿と稲わらの混合率を変化させた結果、稲わらを糞尿に対して24%加えたものは、30日連続の培養が可能であるとわかった。ただし、稲は年中とれるものではなく、稲わらの取得にもコストがかかる。例えば米作も行っている農家ならよいが、零細農家にも同じ条件でできるように、稲わらと同様の性能を持つ植物を探している。河川敷に生えている中では、茅が有用のようだ。雑木の枝でも試している。また、発酵装置も高価なので、より安く発酵できる方法も提案したい。

次に、中島稔委員長より『新エネルギー関連ニュースNo.172』の解説がありました。今回は、○爆発せず消火機能を備えたリチウムイオン電池。可燃性の有機電解液を使わない電解液を使用。○マグネシウム電池用の正極の開発。マンガンを加えて耐久性を高めた。別のプロジェクトでは、来年から実証実験を開始する予定になっている。○日本政府が年内策定予定の水素基本戦略の概要が明らかに。水素発電コストを天然ガスと同程度まで引き下げる目標。○太陽光を追跡するソーラーパネルの設置計画。○薄膜太陽電池セルの世界最高効率22.9%を達成。○日本政府が洋上風力発電促進のためにルール作りを進める。○用水路で小水力発電を行う取り組み。○メタンエンジンの実用化へ向けた取り組み、などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

★レクチュアにつき、当日会費 会員千円にご協力を。

次回、3月6日(火)の新エネルギー委員会に

出・欠 (いずれかに○印)

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。

(その際の会費は二千円となります。)

事務局宛FAX 03-3507-8587

協和協会事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320

HP <http://www.jidaisassin.jp> Eメール kiyohara@jidaisassin.jp

当日連絡先 080(8836)6203 (重田) 080(9292)2620 (高津)